



今回は、1年生対象：「職業別ガイダンス」（未来創造週間Ⅰ）の報告です。

## 第一線で活躍する方々から、仕事や生きがいについてのお話をうかがいました

日 時：平成29年2月2日(火) 14:15～16:05

対 象：1年生全員

目 的：第一線で活躍する方々から学び、将来の職業や生き方について考える。

## 今回講演をしてくださった講師の方々の紹介

毎日新聞社 企画推進本部	オリンピック・パラリンピック室	岩崎ひかる	氏
野原電研株式会社		野原謙太郎	氏
岐阜県北西部地域医療センター	長・白鳥病院院長	後藤 忠雄	氏
岐阜県商工労働部	観光国際局 国際課 国際交流係	堀部 貴子	氏
(株)東海グローバルグリーンング	代表取締役社長	景山 英治	氏
大阪市東淀川区役所	保健福祉課 生活支援担当	櫻井 智子	氏
JICA 中部	市民参加協力課 開発教育支援事業担当	倉坪 久美	氏
株式会社ベネッセコーポレーション	営業企画グループ	尾形 悠希	氏

## キャリア教育事業「未来創造週間」とは

キャリア教育とは、みなさんが子どもから大人へと成長するなかで、職業に関する知識や考えを身に付けると同時に、自身の個性を理解し主体的に進路を選択する力や姿勢を育てる教育のことです。つまり、自分の未来を自分の力で切り開く力を身に付けることであり、関高校では「未来創造」をキャッチフレーズに、キャリア教育を推進しています。

現在、キャリア教育は、小学校から大学、社会人まで、あらゆる場面で行われています。関高校では、高校1年次より3年次まで、「未来創造」をコンセプトに、**大学での研究や将来の職業、生き方を考える特別プログラムを用意します**。講師役は、さまざまな職業分野で活躍中の社会人、大学研究者、そして関高校の先輩たちです。

まず**1年次**には職業別ガイダンスを行います。医師や企業経営者、研究者等、関高生にも人気の分野で活躍中の方々をお招きし、間近に話を聞き、職業や生き方について学ぶという試みです。

次に**2年次**には先輩を囲む会を行います。関高同窓の先輩から、学生時代の思い出や自身の職業観・人生観を伺う機会を設けます。年齢差はあっても、同じ高校の先輩ということもあって、講師との距離感はぐっと縮まります。

最後**3年次**にはよいよ大学。各大学で行われているオープンキャンパスを、この関高校で行ってしまおうとの試みです。平成27・28年度は、各講座すべての講師を金沢大学の先生方にお願ひしました（金沢大学オープンキャンパス・イン・関高）。

以上、関高校進路指導部の方針、進路行事の数々について簡単に紹介をしてみました。

**関高校は「夢を志望に、志望を現実に」を合い言葉に、生徒ひとりひとりの「未来創造」を支援します。**

### 1. 講座の様子



### 2. 内容

新聞社での仕事を中心に、仕事選び、仕事探しのためのメッセージをいただきました。新聞社は、報道機関としての面と企業としての面を併せ持つため、新聞社＝新聞記者だけでなくいろいろな人が働く会社で、いろいろな仕事がある。みんなが専門的な仕事を請け負っているがゆえに、間を取りもつ「コミュニケーション力」を持った人が必要。

みんながわかっている仕事はほんの一部にすぎず、実際はもっと多くの仕事がある。自分自身が、どういうポジションの時に力をはっきりするか特性を理解することが大事。

物事の本質はどこにあるのか。正しいことと反対側から見た印象を大切に。

### 3. 生徒の感想

・物事の本質を見極めることの大切さがわかりました。僕は、「見ため」ではなく、そのものの本質が追求したいです。

・新聞やテレビのメディアの裏側をより深く知ることができ、それらメディアに対して、自分がどのように向き合っていかなければならないのかを学ぶことができ、とても有意義な時間になりました。これから、いろいろな見方から「モノの本質」をしっかり見抜いて、何が正しいのか判断できるようにしたいです。

・とても面白かった。大人になってから、この道は違うなと思ったらまたやり直せばいいということがわかったし、何に対しても「自分で考える」というのがすごく大切ということが分かった。今日話を聞いて、自分の正しいと思う方に進んでいきたいなって思った。私は、アナウンサーになりたいと思っているけれど、世界にはもっともたくさんの仕事があるから、いろいろやってみたいと思った。

・自分のポジションを考えて、出会いを大切に、夢に向かって頑張りたいと思いました。出会いは大切ですね。

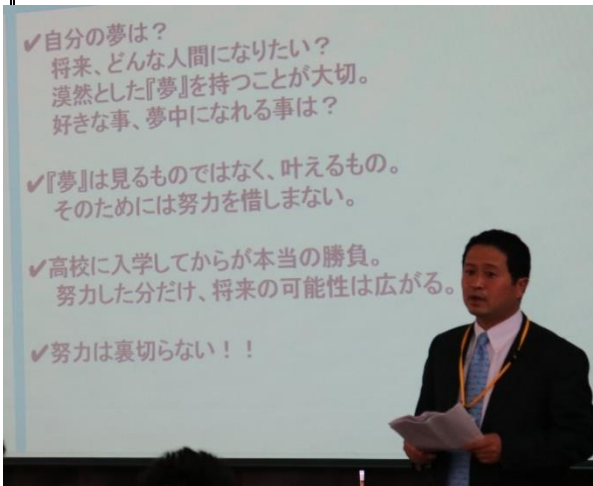
・新聞社はただただ記事を書くだけの仕事ではなく、図を描いたり、正しい情報を見極める人がいるのにはびっくりしました。次回、新聞を読むときはそれも含めて読みたいと思います。

・私が一番苦手なコミュニケーション力が社会で大切だということがよくわかった。何とかして、いろいろな人と関わりを持てるよう努力したい。

・どのような状況で自分の力が発揮できるのかを理解するのは大切だと思いました。

・人と距離を縮めるために必要なコミュニケーション力の重要性を学ぶことができました。今後も多くの人と接する機会があると思うので、自分の心を開きつつ相手の情報も手に入れられるような会話力を身に付けていきたいです。

### 1. 講座の様子



### 2. 内容

- ・ 自己紹介及び略歴
- ・ 野原電研株式会社概要
- ・ 高校・大学・社会人時代の過ごし方
- ・ 現在の自分と今後のビジネス展開
- ・ 高校生の皆さんに伝えたい事

グローバルなビジネスに携わってきた経験から、『誰と出会うか？どんな仕事と出会うか？良い人生は、良い出会いで決まる！』『1度きりの人生日々楽しく、達成感をもって生きよう！』高校生への熱いメッセージや、失敗しても挑戦し続けることの大切さをお話しいただきました。

### 3. 生徒の感想

- ・ 若いうちからいろんなことにチャレンジしろ！という強いメッセージに対して、今やらなければならぬという事を強く思いました。
- ・ 今まで出会った人、これから出会う人との出会いを大切に楽しく努力を惜しまず、頑張っていきたいと思った。
- ・ 将来やこの人生を有意義なものにするためには今からでも少しずつ考えていく事が大切だと思った。
- ・ 地元の企業がとても大事な役割をしていることがわかりました。自分の地元の関の企業について興味がわきました。
- ・ 【トライ&エラー】を繰り返してものづくりをしているので、自分も日頃の生活をもっと目標をもっていきたいと思いました。
- ・ 自動車に酸素センサーという部品があるという事を初めて知った。夢に向かって努力したい。
- ・ 【夢に向かって頑張るのは今である。】、【努力は裏切らなあい】など野原先生の言葉がグッと自分にしみるところが多々あり、自分も頑張ろうと思った。
- ・ 住友商事時代のとき先生は世界のいろいろな場所で活躍なさっていてすごいアクティブななと思いました。また話の中で人とのつながりの大事さということも話されていたので僕も大事にしていきたいと思いました。
- ・ 広い視野があるとわかった。グローバル化が進むのに順応するために、新しい技術を生み出していることがわかった。また、企業が地域社会と密接であることも分かった。将来工学の道に進みたいと考えているので、それが研究なのか、製造なのかをはっきりさせたい。そして【出会い】に感謝して生活する。

## 講座 C

【講師】 医師 県北西部地域医療センター一長、白鳥病院院長

後藤 忠雄 氏

### 1. 講座の様子



### 2. 内容

一人前の医師になるには、医学部で6年間勉強し、国家試験合格後2年間の初期研修を行う必要があることなど、ご出身の自治医科大学での様子も交えてご紹介いただいた。

また、「医師は増えているのになぜ医師不足が生じているのか」などの質問に、ペアでの話し合いをしながら考えた。へき地医療の現状として、県北西部医療センターの取り組みをご紹介いただき、岐阜県の現状等も学ぶことができた。「高度専門医療」と「地域総合医療」それぞれの特性と必要性をご自身の経験や数値などを踏まえてご説明いただき、それぞれの側面からの医療の重要性を感じる事ができる内容であった。

### 3. 生徒の感想

- ・地域の医師は都市部に流れてしまい、負担が増加してしまっているけれど、周辺の病院と連携して軽減しようとしていることを知った。地域医療に貢献できるように頑張りたいと思った。
- ・「医療」と聞くと専門的で高度な技術のいるものばかりだと思っていたけれど、総合医療医のようにいろいろな分野を学ぶ人もいるのだと驚いた。地域に根ざした医師がいれば、過疎化も少なくなるのではないかと思った。
- ・僕たちの生活を支えてくださる大切な存在でありながら、少し遠い存在に思っていた医師の方たちの裏側が知れてとても良い経験になった。自分は生物学の道に進もうと考えているので、間接的に医療に貢献できる人間になりたい。
- ・クイズ形式で私たちが参加できるようにしてくださり、とてもわかりやすい講座だった。また、普段は身近に感じない医療についてたくさんを知ることができた。ペア学習などがあって、楽しく学べる講座だった。
- ・専門の深い知識を持った医者や医療が大切だと思っていたが、実際の医療の現場や需要を考慮してみると、決してそればかりが重要ではなく、むしろ総合医療が現在はさらに必要とされていることがわかった。どちらかだけが必要なのではなく、社会の現状に合わせ、均衡を保っていくことの大切さがわかった。
- ・私はもともと医療関係の仕事にあまり興味がなかったけれど、今日のお話を聞いてすごく興味が出てきました。というよりも「自分の住む地域を支えたい」という気持ちになった。
- ・学生時代から社会人になるまでの話が実体験でとてもリアルで、自分の進路についてもう一度見つめなおすよききっかけになった。
- ・医療系の職業は、一つのチームであって互いに協力することが大事だと思った。また、「地域を見渡せる医者」というポジションの人が少ないことを知って、そのような職業を調べてみたいと思った。

堀部 貴子 氏

### 1. 講座の様子



### 2. 内容

岐阜県観光国際局の具体的な仕事内容や国際交流をする上で大切なことについて話していただいた。岐阜県はベトナムとの交流事業、特にゲアン省への農業技術協力を行っている。社会のニーズや文化が異なる中で、現地の人たちと対話し、農業をより良いものに変えていく努力をしている。また、国内観光客誘致、インバウンド、岐阜県の名産のPRなど、岐阜県を世界に広める取り組みも行っている。関の刃物は意外にも外国人に大人気である。最後にアジアからの留学生は英語力も高く、よく勉強している。今後のグローバル化する社会で、彼らに負けずに、英語はじめ、様々なことを積極的に勉強しなければならない。

### 3. 生徒の感想

- ・自分たちの地域の良さや特色をうまく海外へ発信したり、PRしたりしていくことが大切だと思った。(中略)まずは自分の周りをよく知ること、そしてそれをどのように発信していくかを考え実行する力が必要だと思った。
- ・英語の長文ができて聞いて理解できないと話せないとのことなので、今よりもっと英語を聞きたいと思った。
- ・海外と日本のニーズの違いの中で最大の魅力を引き出す企画を作るのにとっても興味をもった。
- ・今の日本人はアジアから来る留学生に負けているそうなので、負けないようにがんばろうと思った。
- ・岐阜県で外国に実際に行って話をしたり、向こうの環境を変えたりする仕事ができるのにびっくりした。
- ・国際課が岐阜県と他国をつなげていることがわかった。私も海外留学をしたいと思いました。
- ・ベトナムの現状についてよくわかった。日本との農業技術格差があることはよく知らなかった。
- ・日本が発展途上国に対しどのような支援ができるのかについて考えることができた。また留学の利点についても知ることができた。
- ・アジアの国でも日本との食文化の違いが大きいことがわかった。
- ・国際課が岐阜県と世界をつないでいるということがよくわかり、魅力を感じた。私も海外に留学したいと思った。
- ・岐阜県が観光客を増やすためにどのような努力をしているかがよくわかった。大変おもしろい話だった。
- ・企業が外国人を求めている、ベトナムからの留学生はとても優秀であるということを知り、大きな焦りを感じた。

### 1. 講座の様子



### 2. 内容

東海グローバルグリーンングの環境技術で世界

に貢献ができる企業になるという理想のもと、取り組んでいる活動・研究について、以下のことを中心に説明されました。地球温暖化防止のため、温室効果ガス削減を目的として、タイやベトナムなど、海外での植林活動を行っている企業であること。ベンチャー企業には、研究開発は非常に大変な仕事ではあるが、誰もやっていない技術でチャレンジしていくことで新しい時代と未来を切り開いていける醍醐味があること。

次に、自分のプロフィールと現在に至るまでの

経緯をお話しされ、最後に、前日までにFAXで送った生徒の質問に対して、1つ1つ丁寧に回答していただきました。

### 3. 生徒の感想など

- ・ 科学技術の専門的内容が聞けてよかった。
- ・ 未来の子供たちのためにこの活動を行っているっていうのが良かった。
- ・ 今後の環境問題に直結していく話を聞くことができて良かった。
- ・ 地球温暖化の現状を知り、今後社会人となっていく私たちが、少しでも温暖化防止に役立つ人材になっていけたらよいと思いました。
- ・ 普段エコなものと思っていたが、実は製造段階でCO<sub>2</sub>の排出量が他より多いという事実に驚きました。
- ・ 自分の使用しているものでどれくらいCO<sub>2</sub>が排出されるのか気になりました。
- ・ 会社というものは、どう儲けるかを考えているばかりだと思っていました。「地球に何を残せるか。」を大切に考えている会社があることに驚き感心しました。自分もこういう会社で働きたいと思いました。
- ・ ベンチャー企業の面白さを直に聞けて新鮮だった。自分は勝手に「理系」≠「国際的」と思っていたので、理系を目指す私でも国際貢献について興味がわいた。
- ・ 現在の環境問題についてよくわかった。解決に向けて、ボランティアなどにもできるだけ参加していきたい。
- ・ 世界の森林問題についてもっと知ろうと思いました。
- ・ 内容に興味を持てた。家でももう少し詳しく調べてみたいと思った。
- ・ 地球温暖化防止のために自分にできることをやっていきたい。

櫻井 智子 氏

### 1. 講座の様子



### 2. 内容

前半は生活保護のケースワーカーとして関わった事案の具体例を二つほど話された。実体験からくる話の内容の重さに、生徒はかなり衝撃を受けたようであった。またケースワーカーとしての仕事の内容や、その難しさ。また救うことができた時の喜びや成就感などの話があった。

後半はボランティアとして関わっている、家庭の貧困や養育放棄に直面する子供たちへの支援（無料塾など）の話があった。また支援した方からの感謝の手紙の紹介などがあり、生徒は大きな感銘を受けていた。最後に、興味のある者に対して参考になる多くの書籍の紹介をいただいた。

### 3. 生徒の感想

- ・生活保護を受ける人々には様々な状況があり表面だけで偏見を持つてはいけないこと。相手のことを理解するために、対話を重ねながら粘り強く関係を作って行くというようなことは、どんな職業についても大切にしないといけないと思った。
- ・話していただいた経験談にすごく感動しました。最後に、担当された方からのお手紙を見せていただきその内容から、先生のこの仕事に対するやりがいや喜びを強く感じました。
- ・普段あまり生活保護等の福祉の問題に関わることはないのですが、今日の講義からその実態の一部を知ることができてとても有意義な時間でした。これからは福祉のニュースにもっと関心を持ちたいと思いました。
- ・私は福祉には特に関心は有りませんでした。今回話を聞いて、生活に困っている人がこんなにも多くいて、その人たち一人ひとりに向き合って解決していく先生が本当にすごいなと思いました。誰かのためにここまで頑張ることができるということが分かりました。
- ・今回の講座から、生活保護についての内容と、その大切さをよく知ることができました。私は将来看護師になりたいのですが、患者さんとの信頼関係やコミュニケーションを大切にしたいです。
- ・この講座が無かったら絶対知ることがなかった話が聞け、貴重な体験ができて良かったです。ケースワーカーの方の気持ちについても知ることができ良かったです。
- ・私は将来心療関係の職業に就きたいと思っていますが、ケースワーカーという職業についてもっと知りたいと思いました。
- ・ケースワーカーの仕事について具体例を交えて話していただきました。中途半端な気持ちではいけないし、自分の価値観や考え方が問われる仕事だなと思いました。
- ・薬物やお酒は止めたくても止められないことがよくわかりとても怖いと思いました。また、自分は当たり前前に教育を受けられることに感謝したいです。

尾形 悠希 氏

## 1. 講座の様子



## 2. 内容

北欧の教育、育児制度、働く女性が多く男の人の育児参加が高い社会システムに興味を持ち留学し、移民も多くその子供たちの教育はどうなだろうと考え教育に携わる仕事を選んだ。

現在、ベネッセで入試系の研究会の企画・運営、東大・医学科志望の高校生向けセミナー開催、海外進学希望高校生への情報提供などをしており、高校生の進路選択に「間接的」「直接的」に関わる責任の重さはあるが、希望進路実現のお手伝いをするやりがいを持っている。入試系研究会などは1年目から企画・運営を任されるので、長期スパンで計画をたて確実に遂行する責任がある。

自分のリミットを作らず何にでも挑戦してほしい。何が正しいかなんて答えはないのだからたくさん悩んで納得して自分の選択をしてほしい、今を全力で1日1日を大切にしてほしいとエールを送ってくれました。

## 3. 生徒の感想

- ・先生の年齢が比較的近いということで進路の実体験の話が参考になった。いろんな人と関わって考え挑戦し自分の進路を決めたい。
- ・海外に行くことは、自分の感性を変えるので良い。経営やベネッセについてもっと調べたい。
- ・「今全力で」という言葉のように一生懸命生活し、自分の将来の目標を見つけたい。
- ・国際教養学部は少し興味のある学部なので話が聞けて良かった。留学も考えているのでとても参考になりました。進路選択でも悩んでいたのが今日の講義を参考に考えたい。
- ・今、自分が行動しないと自分のキャリアは上がらないので頑張っていきたい。
- ・留学することで自分が知らない世界に触れることができ選択肢が広がるのが分かった。
- ・ベネッセについての話がもう少し知りたかった。
- ・今まで英語を使って国際的に活躍しようと思っていなかったが、講義を聞いて興味を持てた。自分のリミットを決めずに何にでもチャレンジしていきたい。
- ・進路選択するうえで自分の興味のあることは何かしっかりと考えて決めたい。自分の持っている知識を組み合わせ活用できる力を身につけたい。
- ・やはりリミットを作ってはならないと分かった。自分は部活も勉強も頑張りたいので「これがあるからできない」のではなく「これをやるためにこれをやる」にしていき充実した生活を送れるようにする。大学で色々な価値観の人との交流を楽しみたい。
- ・海外で活躍するために日本についてちゃんと学んでいく。
- ・新しく知ることが多かったし興味を持てる内容で良かった。自分は英語に興味があるので留学の話や国際学部の話はためになった。「教育」に関わる仕事の具体的な話も聞けて良かった。
- ・ほかの国の文化を調べても実際に体験しないと分からないので留学に興味があった。
- ・良い勉強方法などを聞きたかった。



倉坪 久美 氏

### 1. 講座の様子



### 2. 内容

倉坪先生の生い立ちから、海外青年協力隊への参加、JICA で働くようになったきっかけと、JICA の具体的な活動内容について、分かりやすく、楽しくお話しいただいた。

海外青年協力隊としてジンバブエへ派遣された際の実体験に基づき、海外で働く際には“コミュニケーション”が重要であるが、それは単に英語力ではなく、現地の服を着たり、現地の人々が食べているものを一緒に食べたりするなど、積極的にその土地の文化を理解しようとする態度であると説明された。そういった力は「人間力（やわらかい心）」であり、海外で働くときに限らず、日ごろから大切にしてほしい。

### 3. 生徒の感想

- ・人間力＝やわらかい心ということが分かったので、相手の意見をちゃんと聞きたい。
- ・人間力（やわらかい心）を大切に、「この人なら…！」と思われる人間になりたい。
- ・自分の考えや意見だけを押しつけるだけではダメで、やわらかい心、広い心を持って相手と接し、相手の意見を尊重することが大事だとわかりました。私も普段の生活から大事にしたいし、ものを使うときは、色々考えて無駄遣いしないようにしたいです。
- ・私もいつか海外青年協力隊に入ってアフリカの国などに行ってみたいと思っていたのでこの講座を受けて、その国の文化や生活に自分が近寄っていくことの大切さを学べてよかったです。
- ・海外と交流する上で、どのようなことが大切なのかをよく知れてよかったです。先生の話聞いて、私も海外に行っても色々支援したいと思いました。
- ・自分の基準だけでなく、他の人の基準も取り込められるような柔軟な人になりたいと思います。
- ・今回の講座で私は人間力を学ぶことができました。人のために何が出来るかどう関わっていけばいいのか考えて生活していくことは、大切なことだと思います。私も将来誰かのために生きられる自分、相手を尊重しつつ、理解しようと努力する自分になりたいと思いました。
- ・外国人から見た日本人の印象など、現地に行った人からでないといけない貴重なお話が聞けたので良かったです。
- ・海外青年協力隊に限らず、普段の生活でも大切になる内容でした。相手の意見を尊重し、理解しようとしていくこと、自分の気持ちを押し付けないことができるようになりたいと思いました。
- ・青年海外協力隊の仕事に興味がありましたが、先生のお話により、自分もそんな風に活動できる人になりたいと思いました。
- ・これからの SGH にとっても生かせる内容だったし、自分も人のために生きる人になれるように頑張ります。

